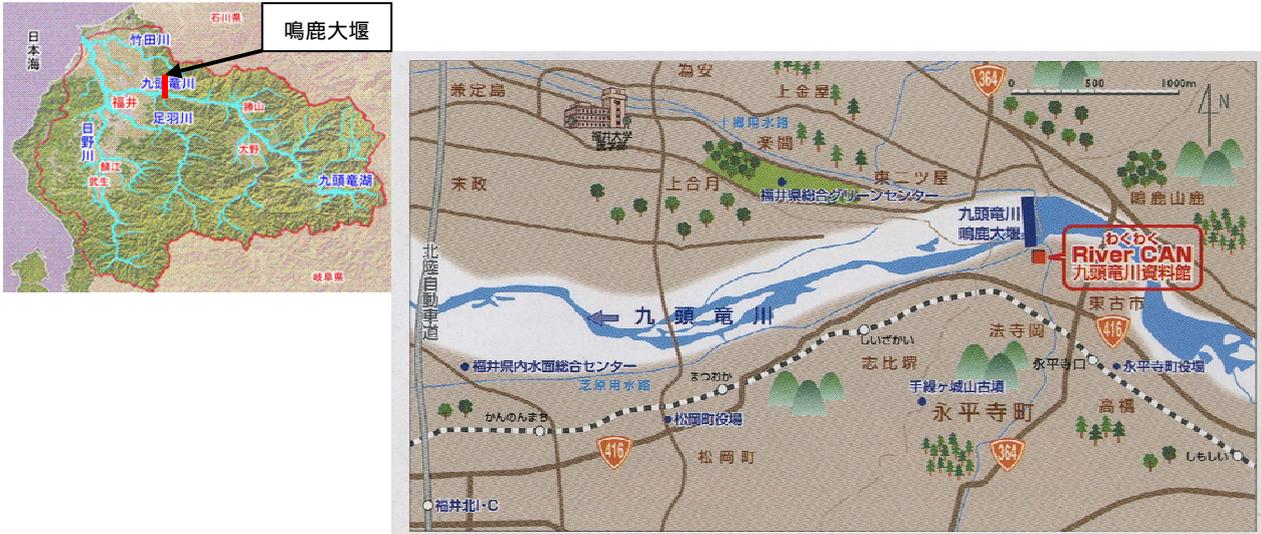


観光社会資本の事例

テーマ	水面を穏やかに彩る ^{なるかおおぜき} 鳴鹿大堰
【施設の状況写真】	
	
鳴鹿大堰は、本州日本海側のほぼ中央にあり、九頭竜川河口から約30kmの福井県嶺北部に位置する。(手前:下流右岸側から上流左岸側を望む)	デザインは、地域に伝わる鳴鹿伝説から「鹿」をイメージし、堰全体が管理橋でつながれた「鳴鹿の舟橋」を連想できるように設計されています。
【施設の利用写真】	
	
九頭竜川資料館は、平成14年4月から開館。九頭竜川の治水、利水、環境及び歴史等が学べ、地域の学習の拠点として活用されています。	見学者には、寸劇(ライブショー)により九頭竜川や鳴鹿大堰の紹介。
【観光資源としての利用状況】	
<p>鳴鹿大堰(九頭竜川資料館)は、平成14年4月に開館したもので、地域の子供たちが九頭竜川に関する治水・利水・環境について体験的に学べるよう、様々な資料を展示しています。河川流域の方々が集える場所としても活用しています。</p> <p>特に、九頭竜川中流部はアラレガコ(カジカ科の魚類)が生息する場所として国の天然記念物になっており、魚道には魚が安心してのぼれる工夫がなされています。また、魚道観察室からは魚が魚道を上っていく様子を観察することもできます。</p> <p>平成16年度は、福井県内41校の小中学校を初め、年間約16,000人以上が見学に訪れています。</p>	

テーマ	<p style="text-align: center;">なるか おおぜき 水面を穏やかに彩る鳴鹿大堰</p>
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 鳴鹿大堰(九頭竜川資料館)</p> <p>所在地 福井県吉田郡永平寺町～坂井郡丸岡町</p> <p>事業名 九頭竜川鳴鹿大堰建設事業</p> <p>事業主体 国土交通省</p> <p>事業期間 平成元年～平成15年</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>形式:可動堰</p> <p>堰長:311.60m</p> <p>有効貯水容量:132,000m³</p> <p>治水</p> <p>旧鳴鹿堰堤は老朽化しており、コンクリート固定部の高さも河床より高いため土砂が堆積し、河道断面が小さくなり洪水の流下を阻害していました。このため新しい鳴鹿大堰の建設により河道掘削・拡幅などを行い洪水を安全に流下させます。</p> <p>流水の正常な機能の維持</p> <p>農業用水の取水を確保すると共に、河川に生息する生物の環境向上を目指し、流水の正常な機能の維持と増進を図ります。</p> <p>水道用水の確保</p> <p>大野市は地下水位の低下により水源を地下水だけに頼ることが困難になり、また社会経済の発展や生活様式の変化による水需要が増大したため、鳴鹿大堰によって水道用水を新たに供給します。(0.1m³/s)</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】 国土交通省福井河川国道事務所 http://www.fukui-moc.go.jp/</p>	